

全科協ニュース

おもな内容：◇加盟館園長の年頭の抱負

◇全科協北から南から

◇加盟館園紹介 狭山市立博物館



年 頭 に あ た っ て

全国科学博物館協議会
理事長 川 村 恒 明

全科協の皆様、謹んで新年のお慶びを申し上げます。

昨年の10月、諸澤正道前理事長のあとを受けついで、全科協の仕事に携わらせて頂くこととなりました。

これまでの長い歴史に支えられた数々の事業を更に積み重ね、展開し、加盟館園の発展充実に資するよう一層の努力を重ねてゆきたいと思いますので、かわらぬ御協力の程お願い申し上げます。

さて、全科協の加盟館園もおかげさまで年々増加し、現在165館園を数え、本会の事業内容も会員館園相互の標本資料の貸出しをはじめ、会員館園のご協力によって「全科協データブック」の作成など活発に展開されております。昨年11月に実施された事業研究会では「博物館と学校教育との連携」について連日活発な研究協議が行われ、得るところ大であったと確信いたしております。

また、年頭早々に予定されている第9回「北米科学系博物館視察研修」には、18名の参加申し込みがあり実り多い成果が期待されております。

近年、本格的な生涯学習社会への移行が進むとともに、学校週5日制が実施される等、社会の諸状況も急激に変化しています。こうした中で博物館が社会において果たすべき役割、機能がこれまで以上に重視されていることは御承知のとおりです。

このため全科協加盟館園相互の連携協力、情報交換がより緊密となるようネットワークを形成し、各館園が相互に充実発展していくことが喫緊の課題となっています。このような状況を踏まえ、平成5年度からは博物館間の連携を深めるための各種の博物館連携事業や博物館職員の皆様の一層の交流・向上を目指しての研修事業等の実施を心掛けて参りたいと考えております。皆様の御協力と積極的な参加を心よりお願いいたします。

今年も幅広く活発な活動が展開されますよう、よろしくお願い申し上げます。

全 科 協 事 業 研 究 会 開 催 さ れ る

一日目にパネルディスカッションが行われ、出席者から熱心な意見、質問が出ました。

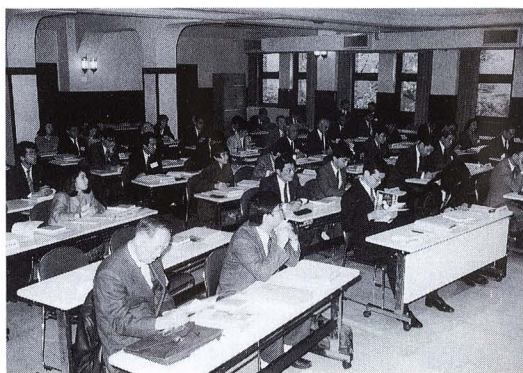


第22回博物館事業研究会が平成4年11月25日から27日までの3日間国立科学博物館本館で開催され、38の博物館等から67名が参加しました。

今年度は「博物館と学校教育との連携」を研究テーマとして、1日目には大堀哲国立科学博物館教育部長の司会によりパネルディスカッションが行われ村田文生埼玉県教育委員会生涯学習課長、大塚哲雄浜松科学館事務局長、田中千尋お茶の水女子大学附属小学校教諭がパネリストとして意見交換を行いました。博物館が学校対象に行っている事業、学校の博物館を利用した学習などの例が報告され、出席者から熱心な意見、質問が出ました。

2日目の午前中は、自然史系博物館と理工系博物館に分かれ、研究テーマについてグループ別研究協議が行われました。午後は全体会議を行い、それぞれのグループの協議内容が紹介されました。学校との連携についての問題点が取り上げられ、各博物館での工夫や解決策などが協議されました。

その後、情報交換の時間を持ち、「県立博物館情報システム」(千葉県立中央博物館)や、「青少年のための科学の祭典」(科学技術館)などがそれぞれ紹介され、参加者は興味深く聞き入っていました。



ました。最後に白井高国立科学博物館普及部長が研究会の協議内容についてまとめを行いました。

3日目は、国立科学博物館で開催中の特別展「楼蘭王国と悠久の美女」の見学のあと、消防博物館(新宿区四谷)を12月3日の開館に先立ち見学し、3日間の日程を終了しました。

なお、事業研究会の報告は次号以降のニュースで紹介する予定です。

年 頭 の 抱 負

札幌市青少年科学館長 荒井 徹

当館の新年は、恒例の冬休み特別展（1／6～1／20）で幕を開けます。今回は、「'93工作大集合」と題して、数種類のかんたんな工作の材料を用意し、5～10分位で作れるコーナーをメインに、自分で作って参加できる「ふうせん自動車競技会」など盛りだくさんの内容で、市民の参加を中心とした特別展です。一方、天文事業は、プラネタリウムの一般向けオート番組「メテオクライシス」に替わる新番組の準備を始めるなど、一層の充実を図ってまいりたいと考えております。

釧路市立博物館長 小笠原立男

明けて平成5年、釧路湿原は荒涼たる大雪原が広がっています。50年余の歴史を刻む当博物館は新館オープン10周年を迎えます。

今年は、ラムサール条約締結国釧路会議を6月にして、自然環境への関心が高まっています。自然史系総合博物館としても、特別展「釧路の野鳥」の開催が予定されています。又、昨年オープンした生涯学習センターと併せ生涯学習都市としての博物館、調査、学習をはじめ諸活動の充実をはかり、地域に根ざした開かれた博物館として、職員一同で邁進したいと思っています。

秋田県立子ども博物館長 小野志美雄

平成4年から展示更新を進めてきています。

この1月10日から、1階レクリエーションホールに広く県民に愛称募集したキャラクターロボット「アキちゃん」が仲間入りし、新たなロボットコーナーがお目見えします。

また、宇宙に関する興味・関心が高まっていることからモニターTVを備えたロケットに関連するコーナーも設置されます。

展示更新2年目の今年は、子どもの遊びの心に対応できる展示として「科学のおもちゃ箱」を構想しています。

普及活動では、昨年から実施した少年自然の家との共催事業「移動子ども博物館」を県内3ヶ所で開催する計画です。各教室、講座等については子どもの自主的な活動を助長できるように内容面での充実を図るとともに、学生を主としたボラン

ティアによる援助活動を取り入れていきます。

年頭にあたり、13年の歴史をふまえ今新たな時代に向かって躍進していきたいと思います。

秋田大学鉱山学部附属鉱業博物館長 徳田 弘

鉱業博物館は一昨年秋に創立30周年を迎えて以来、リフレッシュ事業を検討してきました。同窓生・企業・文部省などの御援助のもとに、まもなくその工事が始まります。

これを機会に、私達日本人の身の回り品のほとんどが自然資源から生産され、日本が外国からの輸入に依存する資源小国であることを、豊富な標本やニューメディアを使用しながら、国民にアピールしたいと考えております。

工事のため今年11月以降は閉館となり、来年3月中旬に新装オープンする予定です。

秋田県立農業科学館長 中野 智夫

1991年5月の開館以来、県内をはじめ、全国各地から多くの方がたの御来館をいただき、大変御好評を得て今日に至っております。

ここで改めて、今後の在り方を考えてみますと、当館の展示は、参加体験型をその主軸としていますので、企画展示・教室・行事等の内容をより一層充実させていくことや、年次計画で進められている常設展示の改善や諸施設の拡充、更に屋外植栽物等の環境整備に力を入れ、御来館の皆様からより高い評価を頂けるように努めて参りたいと考えております。本年もどうぞよろしくお願いいたします。

盛岡市子ども科学館長 菊池 凡夫

本年は、当館も開館10周年を迎えることになります。これまで市民はもとより広く県内外の多くの方々から親しまれ発展して参りましたので、記念事業も子ども科学館まつりや特別展、各種の科学教室や工作教室など、より多くの方々に参加いただける内容にするよう準備を進めております。

今後、子ども達が楽しみながら科学の夢を豊かに持ち続けるような科学館を目指して参りたいと存じます。

年 頭 の 抱 負

岩手県立博物館長 金野 静一

「ザ・タイム・イズ・チェンジ」とは昨年のキーワードですが、ことしは、前例にとらわれない柔軟な発想を大切に、同時に博物館としての基本に立ち返ってじっくりと在り方論を考えていきたいと思います。そして、生涯学習への対応を含め博物館をめぐる諸問題について、単なるムードのみの“一次方程式”だけで考えるだけでなく、21世紀を展望しつつ“多元方程式”で対応していきたいと考えております。

本年、当館が総力を挙げて取り組む国民文化祭関連特別展「縄文発信展」(10～11月)を全国の多数の皆様がご観覧下さるようお待ちしております。

斎藤報恩会自然史博物館専務理事 斎藤温次郎

当館は、今年で開館60周年を迎えます。総合博物館として、1933年にオープンし、第2次大戦の戦災で資料の焼失を受けましたが、1976年に改築して、自然史系の博物館として今日に至っていますが、本年を一つの契機として、現状をもう一度見直し、新しい視点より、60年前の開館の原点を再構築する年としたいと願っています。大変遠大なことですが、開館100周年即ち2033年を目標として、小さいながらも中味の濃い、自然、理工、人文の各分野を学際的にとらえた、研究と資料の整備、充実の出発年と考えてます。全科協各館園のご発展と援助を願う次第です。

金属博物館長 今井勇之進

当金属博物館は世界で唯一の金属の総合博物館として昭和50年開館以来、常設展中心の小規模館ではありますが着実に資料の増加と充実を努めて参りました。幸い見学者も漸増傾向で、又世界の金属考古学・技術史の論文を集めて刊行しております『金属博物館紀要』も好評で、昨年度は年2回刊行を果すことができ、内外の好評を頂きました。間もなく創立20周年を迎えますので、内外各位のご協力を得て一層の充実を加えたいと存じます。

郡山市児童文化会館長 吉田 満

本市の生涯学習基本構想の第一次実施計画を受けて、本年度は本市第三次総合計画第六次実施計画と併行して、館内常設展示品の再検討整理を推進し、科学への興味関心を喚起する新鋭展示品の円滑導入を促し、科学の時代に相応した館内環境の整備に邁進する所存であります。

また、科学する子どもたちの生涯学習、学校教育に関連する学習等の指導者と連携し、多角的かつ独創的な学習機会の提供に努めるとともに高度情報化・国際化・宇宙時代に生きる子どもたちの体験学習の拠点として、利用者から愛され親しまれる開かれた施設づくりに取り組んで参ります。

農林水産省蚕糸・昆虫農業技術研究所企画連絡室
情報資料課長 楠木園正雄

当研究所には、博物館と呼ぶほど立派なものではありませんが、展示室を開設している関係で、全科協に加盟させていただいております。

展示内容は、当研究所の前身が明治44年に創立され、蚕糸に関する貴重な文献、標本(200年前の繭保存)等をはじめ、最近の研究分野である昆虫機能研究の成果等を展示しており、視察・見学者も小学生から大人を含め、一般の人から専門家まで数多い。公開行事は4月中旬の科学技術週間一般公開のみですが、ウィークデーであれば都合のつく限り、いつでも公開しております。

栃木県子ども総合科学館長 野中ハツエ

平成3年度から科学館の“いのち”とも言える展示品の更新に着手しました。当初の「生命の科学」コーナーが2月末には完成しますが、引き続き「情報の科学」「乗り物とロボットの科学」とコーナーごとに順次更新していく予定です。

また、昨年実施した最速のメカの仕組みを紹介する「FIの世界」が大好評でしたので、本年も先端技術に関する企画展を中心に各種教室、講座、イベントなどの実施を計画しております。

学校週5日制の実施や生涯学習の機運の高まりとともに、県民の科学館に寄せる期待は大きく、尚一層の充実を図って参りたいと考えております。

年 頭 の 抱 負

群馬県立歴史博物館長 高野 貫行

当館は、今年で15年目を迎えます。昭和54年10月開館以来今日までに255万人が利用しました。

常設展示では歴史博物館として群馬の歴史が概観できるよう、①政治、経済のあゆみ②人々のくらし③文化遺産を主題として展示しております。

今年の企画展は4月17日から本県出身の戦国時代の禅僧「風外慧薫」、8月1日からは「日本刀の美」、10月2日からは埴輪が語る古代の祭祀に視点をあてた「埴輪の祭祀」を開催いたします。

館林市子ども科学館長 小宮 稔雄

郷土、館林市出身の女性宇宙飛行士、向井千秋さんが、1994年7月、米航空宇宙局（NASA）の打ち上げるスペースシャトル「コロンビア」に搭乗することが決定しました。館職員を始め全市民が待ちに待った知らせです。今年は展示室に向井さんコーナーを設けスペースシャトルやそこで行われる実験の概要や目的などを紹介したり、打ち上げに向けて行う各種イベントの準備で忙しくなりそうです。また、これを契機に科学クラブを発足させ、何年後に第2、第3の地元出身の宇宙飛行士が誕生するよう科学の普及、啓蒙を進めていきたいと考えています。

浦和市青少年宇宙科学館長 山崎 廣

開館満5年になります。（K）きれい（T）たのしい（T）ためになるをスローガンに、館員一同で創意工夫を楽しんでいます。昨年は世界初の人力飛行機シミュレータを共同開発しました。参加型の展示をさらに増やしていくつもりです。

5月には、館の前の競技場でプロサッカーが開幕されます。「スポーツの科学展」を皮切りに手作りの企画展・特別展を開催します。友の会、ミュージアムショップも誕生の年になる予定です。

川口市立児童文化センター館長 大池永二郎

開館32年目を迎え、継続することの重みと意義を改めて感じています。

懸案の新施設構想をじっくり練りあげながら、一方で、学校週5日制への対応とあわせて、現有施設の活性化と児童生徒が気軽に参加できる行事

をあれこれ考えてみています。

常設展示は、昨年から2年次にわたる「身のまわりの自然」の様子がえを始めました。キーボードを用いて鳥の検索をするものですが、大変好評で、次のプランニングが楽しみな新年です。

千葉県立中央博物館長 沼田 眞

開館5年目の春を迎えました。入館者も本年には70万人に達する見込みです。

昨年3月には、文部省の定める研究機関の指定を受けることができ、秋には科学研究費の申請を行いました。また、県立美術館・博物館8館を高速デジタル回線でつなぐ「県立博物館情報システム」が完成し、供用を開始することもでき、実りの多い年となりました。

5年目を迎える本年は、博物館事業のより充実を図るよう職員一同努力したいと思います。

我孫子市鳥の博物館長 黒田 長久

平成2年5月、鳥類専門の博物館として開館して以来3年目の新年を迎えました。おかげさまで全国各地から大勢の人が来館されました。

今年も博物館資料の充実に努めることはもちろん、話題性に富んだ企画展も計画しています。今年度新たに開催する企画展として、身近な鳥を紹介する「庭に来る鳥」展、鳥の嘴に着目した「鳥のかたちとくらしー餌とくちばしー」展を開催いたします。

本年もなお一層のご指導をお願い申し上げます。

通信総合博物館長 瀬川 彰

新しい年を迎えて、例年のことながら気になるのが入館者数のことです。まず、博物館の所在を知ってもらい、展示内容に関心を持ってもらって来館して頂くことが必要になります。

昨年は館の前の広場に、赤いシンボルモニュメント「陽甲」を設置して、分かり易い目印が出来ました。今年は展示内容を充実する年になりますが、コミュニケーションの発展段階が大人から子供まで楽しみながら分かるような展示を工夫してみたいと考えています。

年 頭 の 抱 負

交通博物館長 井上 邦之

昨年は、世界の鉄道映像システムや1920年代の自動車シャーシ等の展示が新たに加わりました。今年は既存展示の部分更新や解説板の充実、船舶室の展示替え等、内容の充実に努める予定です。

また、鉄道関係の貴重文献資料を中心に約1万4000点を受け入れましたので、既存の資料と併せて多くの方々にご利用いただけるよう、分類整備作業を進めたいと考えております。

さらに、「鉄道制服の変遷展」「明治の鉄道写真展」及び参加型の催物を開催し、親しまれる博物館を目標に、取り組んでいきたいと考えております。

NHK 放送博物館長 北林 才知

2年後の1995年は日本の放送開始70周年にあたります。世界最初の放送専門ミュージアムとして誕生して37年を経た当館は、この期をターゲットに設備や展示方法の抜本的な見直しを進めています。

人類のコミュニケーション発達史の観点に立ちつつ、急速な情報化社会の進展に対応できる未来指向型の博物館をめざし、いっそう魅力ある博物館づくりに取り組むため、館員一同鋭意努力いたします。今年もご指導のほどをお願いいたします。

労働省産業安全研究所附属産業安全技術館長

木下 鈞一

昭和18年9月に設立された当館は、わが国唯一の産業安全に関する技術館として、労働災害防止に関する展示を中心とした安全技術情報の提供を行ってまいりました。

わが国の急速な産業の発展の陰で労働現場においては、いまなお多数の災害が発生しているのが現状です。新しい年を迎え、当館では、産業設備の大型化・複雑化や技術革新・新工法の導入に伴って発生する各種の災害の防止をめざした新しい安全技術の紹介や災害防止に関する情報の充実を図り、来館者の皆さんのご利用をお待ちいたしております。

目黒寄生虫館長・理事長 亀谷 了

一昨年より工事をすすめて来た改築工事も(株)シバタ組の手でほぼ完成し、目下展示室の内装が進行中です。三月一杯に終わります。これで地上六階、地下一階建てとなります。

展示室は、一・二階を当て、夥しい文献・標本も夫々その所を得、ご利用の方には大変便利になります。特に悪質な寄生虫の多い海外旅行の方々にはお役にたちます。

開設以来四十年、私の宿願も達成され、館員の研究活動も一段と活発になるでしょう。御期待下さい。

天文博物館五島プラネタリウム館長 村山 定男

当館は昨年4月1日に開館35周年を迎えて、記念行事も12月で、ほぼ完了しましたので本年1月11日から2月13日迄5週間休館して、プラネタリウムのオーバーホールを実施する運びとなりました。ドイツのカールツァイス社から2名の技師を迎えて、之を行います。約36年間大分酷使して来たので、さぞや手の掛かる事と思います。終了後は又美しい星像をお見せ出来る事と思います。これで館内改装工事に続いて投影機も再生されるので、今後は投影効果を更に上げるため、付属プロジェクター等の充実を図りたいと目下検討中であります。

サンシャインプラネタリウム館長 藤井 常義

当館は、本年の10月5日で開館満15周年を迎えます。開館以来の入場者数も今年の4月で500万人を達成する予定です。

本年は満15周年を迎えるにあたり、1月中旬より約2カ月間臨時休館をして、プラネタリウム投影機を最新型に更新します。また大型のビデオプロジェクターや特殊投影機を新たに増設し投影効果の充実も図ります。さらに椅子、音響設備なども一新し、3月上旬より再スタートして、今迄以上に親しまれる館として頑張る所存です。

年 頭 の 抱 負

板橋区立教育科学館長 大久保 作

当館は、昭和63年9月に開館し、今年で5周年を迎えます。入館者数も区の人口を超える62万人に達しました。

今年は特に展示物、運営委員会、プラネタリウム等の解決すべき課題について取り組んでいきたいと思っています。8月には、ハイテク技術を駆使した機器を展示し、「明るく楽しい私達の未来」を体験してもらう特別展を実施します。

子ども達に夢を与え、区民に親しまれる館にするため、今年も努力していきたいと思っています。

神奈川県立青少年センター館長 秋津 和雄

当館は、昨年開館30周年を迎え、記念フェスティバルの一環として、11月には「日本の人工衛星展」等を開催し、盛況のうちに終了することができました。神奈川の次代を担う青少年に「科学に対する心を開いてもらおう」ということで、参加体験型の展示場と共に、平日には中学生を対象に体験活動を行い、又土・日曜日には小学生科学教室を開いています。30年の歳月がある意味では、地域に密着したセンターを作り上げて来ているといえます。今年も又、新たな感動・発見の年でありたいと願っています。

横浜こども科学館長 牧野 昇

当館では、平成6年5月に開館10周年を迎えますが、その機会に大規模な展示更新などの事業を行いたいと考えております。

今年は、それに向けての準備期間として、極めて重要な1年になると思われますので、職員一同、気持ちをひきしめて新春を迎えたところです。

また、学校5日制への対応など、課題も多く、皆さま方のお知恵を拝借させていただくこともあるかと存じます。

よろしくお願い申し上げます。

観音崎自然博物館長 山下 金義

当館は新設4回目の新春を迎えました。東京湾口を望む県立観音崎自然公園の一画、前面は磯浜が広がる海辺、背後は常緑の丘陵に囲まれた豊かな自然環境に恵まれております。展示による活動

に併行して、幼児からお年寄りまで、楽しみながら自然とふれあう体験学習行事を進めてまいりました。

当館は、周囲の自然環境をも展示物に取り込んだ展示活動と体験学習活動を両輪とした“参加型博物館”を目指して、今年も一層努力していきたいと考えております。

横須賀市自然博物館長 田辺 悟

今日、多くの博物館は展示教育普及活動（事業）に対してはかなり積極的な取り組みがみられますが、その基礎となる調査や研究活動（事業）に対する蓄積はまだ不足しているように思われます。そうした欠陥を補填しつつ、前むきに博物館運営をおこなう年にしたいと考えております。礎石のしっかりした足腰の強く丈夫な博物館の継続的な運営を今年もおこなっていく所存です。

川崎市青少年科学館長 芳賀 郁夫

昭和58年度から開始された「川崎市域の自然調査」に示されるように、当館の目指す博物館のあり方の大きなテーマの一つは、開かれた博物館ということでもあります。プラネタリウムに限らず、当館の事業展開の基本は手作りであります。この基本を忘れることなく、本年も多くの市民、そしてボランティアの方々と互いに手を取り合って実りある博物館活動を続けてまいりたいと考えております。

東芝科学館長 東 中正

一昨年11月に開館30周年を迎え、館内展示物一新を図り、来館の皆様大変喜ばれています。これを機会に生涯教育受皿の準備を兼ねまして、“やさしい先端技術講座”（我社の研究所で開発中の先端的技術を研究者自身講演すると共に開発中の現物も披露する講座）“ワープロ教室”“低学年向と高学年工作教室”等を定例的に開催し、開放された科学館を目指しています。本年はこれ等をより充実したものに定着させる年と考え、準備に専念します。皆様も機会があれば参加しませんか。

年 頭 の 抱 負

伊勢原市立子ども科学館長 相原 彰

当館は、子ども達に『科学する心』を培うと共に、創造性豊かな人間の育成に助力して行くことを目的として、平成元年に市立図書館との複合施設として開館致しました。

本年は五周年の節目に当たることから、展示物やソフトウェアの一部更新、移動教室や教育普及活動の充実、広報活動の工夫と活性化を重点として、微力ながら魅力ある科学館づくりに一層精進して参りたいと考えております。今後共さらなる御支援の程お願い申し上げまして年頭の御挨拶とさせていただきます。

新潟県立自然科学館長 寺田 博

昨年4月に館長に就任し最初の新年を迎えました。

当館は、参加体験型の展示を重視し、お客様に楽しんでいただけるよう計画的な展示更新を始め、特別展をわかり易く、面白い内容となるよう心がけて企画しています。

また、各種実験教室や工作室など教育普及を実施し、より多くの人に科学に親しむ機会を提供しています。

今年も展示更新事業「科学の目」を始め、特別展事業などに積極的に取り組み、多くの人に一層親しまれる充実した科学館を目指したいと思います。

新潟県立上越科学館（リージョンプラザ上越）

支配人 齋藤 弘

1984年に青少年と一般の方々に参加し、文化を創造する場として発足した「リージョンプラザ上越」の一環として上越科学館は、「人間の科学」「雪の科学」を基本テーマとして構成しています。本年度も展示の一部更新、各種の科学教室やクラブ、サイエンスマジックショーの実施、小中学生の施設利用学習援助等、入館者が楽しみながら科学に親しむ魅力ある場にしたいと考えています。

なお、夏休み特別展として、「レオナルド・ダ・ヴィンチ展」を構成し、科学するレオナルドに光を当てながら、青少年が創意工夫に取り組める場を提供していきたいと思ひます。

富山市科学文化センター館長 石浦 邦夫

市民密着の、ローカル性豊かな館をめざします。

昨年は、富山市民32万人を調査員とし「身近な自然調査」を軌道に乗せましたが、今年は、市内小学校5年生全員も調査員に加えました。

また、昨年は開館以来初めて、自然史常設展示室の全面展示替えを行いました。4月には、全面展示替え中の理工展示室もオープン予定です。

さらに、昭和31年開設の付属天文台が老朽化したので、改築のため昨年懇話会を持ち答申が出ました。今年は、これを基にユニークな基本構想をまとめるつもりです。

石川県白山自然保護センター所長 米山 競一

当センターは、設立20周年を迎えます。これを機に、中宮展示館の展示を全面改修する予定です。白山国立公園のビジターセンターでもあることから環境庁の協力も得て、今年後半から平成6年にかけて工事を行い、展示を白山の象徴でもあるブナ林をテーマにしたものに改装し、自然の多様性の重要なことを訴え続けたいと思っています。

冬の野生動物観察施設であるブナオ山観察舎に加え、平成4年には国設白山鳥獣保護区管理センターをオープンさせ、自然観察や登山の指導にも力を入れています。

山梨県立青少年科学センター館長 三科 英訓

開館以来27年を経過し、また、敷地である甲府城のリフレッシュ計画に伴い、移転改築の構想が進んでいます。各館園のご指導をいただいているところであり、この場をお借りして深く感謝申し上げます。上げる次第でございます。

一方、現有施設も改築落成まではこどもたちの期待に十分応えなければなりません。従来の主催事業に加えて、「楽しい科学教室」を土・日曜日に開催して、学校5日制の実施の受け皿としての使命を果たすべく努力しております。

年 頭 の 抱 負

岐阜県博物館長 篠田 幸男

平成元年8月に、白山のふもとで恐竜の足跡が発見されて以来、多くの県民が恐竜に関心を向けるようになりました。岐阜県博物館では、それに対応すべく、恐竜の連続歩行の足跡化石のレプリカや恐竜イグアノドンのレプリカを展示すると共に、昨年は恐竜展を開催しました。

これらの事業により、博物館へと目を向ける人が増え、来館者が徐々に増加してきました。

今後は、平成8年の20周年に向け、情報化の時代に対応すべく新規事業を企画していきたいと思っています。

内藤記念くすり博物館長 岩井鑛治郎

くすり博物館では、くすりの歴史やセルフメディケーションの展示のほかにも、年末には屠蘇散、5月には菖蒲を、そして秋にはベニバナの種子等をお配りし、健康を祈る身近な年中行事や葉草に親しんでいただく催しを行っています。また本年は、寄贈資料を中心とした目薬の特別展や、新しいくすり・健康科学についての展示も企画しています。このような催しを通じて、来館者の皆様が楽しみながら、持っている知識や情報を充実させていくお手伝いをしていきたいと考えています。

静岡市立児童会館長 山村 敏男

静岡市の中心に位置する駿府公園の一角に当館はあり、休日等は親子づれでにぎわっています。

平成5年は静岡市立児童会館20周年に当たり、10月には記念事業を予定しています。特に常設展示場には「ふしぎな体験コーナー」を設置して、一層新鮮さを加えてまいりたいと考えています。

平成4年9月から学校5日制休業日に備えて実施した、教室開放等を一層充実させるとともに、子供たちの科学する心や創造性を育てる場として、一段と整備充実してまいっている所存です。

浜松科学館事務局長 大塚 哲雄

去る年（申歳）を振り返ってみますと、夏の新エネルギー展、秋の理科作品展そして冬の生命の大進化展等のイベントは盛況のうちに終了することができました。さらに9月12日を初日とする学

校5日制への取り組みは、すでに5月から実験室創作室開放事業として先行実施してまいり、県内各地からの参加があり好評を得ております。

本年取り（西）入れる事業はボランティア制度導入です。開かれた科学館へのアプローチとして実施します。

ことしも会員各館の皆様のご指導ご助言をお願い申し上げます。

でんきの科学館長 寺沢 安正

最近企業が展示館、PR館の他に、博物館、美術館などの文化施設をもつようになりました。これは今迄の人、物、金、情報の経営資産に加え、知的・感性的な企業文化を構築する風土が理解されてきたものであると思います。

新年にあたり、常に時代を先取りし、創造性豊かなでんきの科学館を運営し、地域文化の向上をめざしていきたいと考えます。

豊橋市自然史博物館長 高須 温

生物の進化と郷土の自然史をテーマとして建設された当館は、今年で開館5年目となります。

昨年は、開館以来入館者100万人を達成するとともに、ほぼ倍の面積に増築も完成し大型映像の放映も始まりました。

今年は、資料の充実はもとより自然史講座等の開催やボランティアの育成を図るとともに、開館5年・デンバー自然史博物館友好提携10年を記念した特別企画展の開催や郷土の自然展示室の大規模展示替えを予定しています。

半田空の科学館長 原 稜

早いもので、当館も開館以来8年目の新春を迎えます。

今年は、宿願であった一階の常設展示の入れ替えを行います。子供から大人まで楽しんでいただけるよう、体験型の展示を現在思案中です。

夏休み特別展は「あっ！というま」というテーマで、人間の目には見えない瞬間の映像などを中心に、面白くご覧いただけるよう展示します。

今年も多くの方々には自然や科学に親しんでもらえるよう各種事業を開催予定です。

年 頭 の 抱 負

博物館明治村館長 村松貞次郎

当館の開村は昭和40年ですから、今年は28周年を迎えるわけです。青年期から壮年期へ入ってきた心の準備で、いささか緊張しております。入場者数の累計も3,500万人に達する勢いで、文字通り国民博物館を自負しておりますが、明治とはいかなる時代だったかを、改めて問いなおす責任も重いものだと思います。今年は京都の町屋1棟を復原しますが、これで重文9棟を含めて62件となる建造物のそれぞれの内容を充実させて、ミニ博物館とさせるスタートの年にしたいものです。

鳳来寺山自然科学博物館長 松井 保

十年一昔というが、早いもので開館30年目の新春を迎えた。私は館の歴史の半分以上、その責務を分担する。重点目標は「自然の知識の普及と実践」「自然資料の収集と保存」「業績の公表」でそれに徹してきた。弱小自治体の運営管理による運命から、形で残るものが少ない。ささやかであるが「愛知県博物館協会奨励賞」「日本博物館協会多年勤続顕賞」「学芸員国家試験無試験認定」を得た。地域の特色を生かし、みんなに親しまれる自然活動をめざし努力していきたいと思います。

トヨタ博物館長 日置 直也

所謂「企業博物館」として昨今の厳しい経営環境の下、館の運営には一層の工夫が求められています。当館では、こうした制約の下でも①博物館から明るく楽しい話題を提供したい②継続は力と信じ恒例の諸企画を続けてゆきたいと考えております。幸い学芸スタッフも量質共に年々向上がみられ、各員が一年先二年先のテーマを抱え勉強する体制が徐々に整いつつあります。館相互の協力、交流、それに切磋琢磨を加え本年も前進してゆきたいと考えております。

神宮徴古館農業館長 岩田 貞雄

農業館は、明治24年に創立されたわが国の私立自然科学博物館として最古のもので、明治44年徴古館とともに、神苑会から神宮に献納されました。

現在、その宝珠屋根造風の建物は平成元年九月閉館解体され、保管されています。跡地には第61

式年遷宮記念神宮美術館が建てられ、平成5年10月のオープンを待つばかりです。農業館はその後、同じ倉田山に復元の予定ですが、それまでは、徴古館の二階に農業館仮展示をしています。当分の間皆様にはご迷惑をおかけしますが、尚一層の努力を心がけるよう考えております。

鳥羽水族館長 中村 幸昭

一九五五年開館以来、三十九年目を迎えた当館は、新館第一期工事に続いて二期、三期工事を着工、来春オープンの予定です。

年間二百数十万人の入館者の期待に応えるためグレードアップを目指します。社会教育施設であると同時に教育文化面を強化。さらに学術研究に注力します。

海や川に棲む生物たちを通して地球環境の保全を訴えたいと考えています。生きている博物館としては生涯学習教育の一環として環境教育を重要視するのが急務と信じています。

本年もどうぞよろしく。

みえこどもの城館長 別所祐己夫

本年は、開館5年目を迎えます。本館はこどもが遊びを通して、主体的に活動し、創造性豊かで、しかも、科学する心の醸成を目的として開設されました。従って、参加体験型の展示のほか、全天映画・プラネタリウムを上映し入館者に楽しんでもらっています。又、工作クラブ、理科クラブ等の講座を開設し、親子で様々な体験学習をしてもらい喜んでもらっています。新年度には、「パソコンによる遊び展」「こどもフェスティバル」等を開催して、より愛される館としたいと思います。



年 頭 の 抱 負

京都市青少年科学センター所長 岡本 一

学校5日制の試行が始まりました昨年、京都市における毎月第二土曜日の子供たちの受け皿として第一番に指定されたのが当センターでありました。果せるかな、この日は非常な賑いで、子供たちの科学に親しむ場を造るべく、20数年間積み重ねて参りました努力の成果を見る思いです。

今年の課題は、はじけたバブルの余波をかぶりながらもなんとか設備・内容の充実を図り、子供たちの、また市民の、日々に新しい期待に応えて行くことだと考えております。

毎日放送放送文化館長 倉島優太郎

当館は民間唯一の「放送文化館」として大阪吹田市の毎日放送千里丘放送センター内にあります。昨年は文部省の小学校指導要領の改正で「放送が日常生活に深い関係のあることを学ぶ」ことが定められたこともあり、小・中学生の団体客が大幅に増えております。

本年も当館はスタジオや展示物をただ見せるだけでなく放送現場を体験している館員が親切で分かりやすい説明を付け加えることで、放送をより身近に感じてもらえるよう努力を続けて参ります。

神戸市立青少年科学館長 佐野雄一郎

本年は、神戸市内全体を会場とした、アーバンリゾートフェアが、4～9月にかけ開催され、いろいろなイベントが行われますが、当館におきましても「近未来展」や「世界のパズル展」等、楽しく親しまれやすい特別展を開催いたします。また、生涯学習、学校週5日制を迎え、その受皿としてボランティア制度をスタートさせたいと考えております。皆様の御指導よろしく願いいたします。

生駒山宇宙科学館長 濱根 洋

行く年を送り、新しい年を迎える、という事を、博物館事業に入り込んで、もうかれこれ40回繰り返して来ました。その間には、様々な出来事がありましたし変化がありました。特に「科学」の進歩は、日進月歩でした。しかし、宇宙の進化は、悠久の昔から変わりません。今年も又、入館者に

「宇宙のイロハ」そして「宇宙の歴史」を問いかける特別展を企画して楽しく見ていただこうと思っています。

広島市こども文化科学館長 中道 紘二

館長に就任して以来はや3年目になりました。その間10周年記念式、入館者500万人記念及びプラネタリウム50作記念番組など記念すべき事業に恵まれてまいりました。また、開館10年目を契機に展示更新やプラネタリウムの改修を年次計画に基づき実施しているところであります。平成6年10月には、広島でアジア競技大会が開催されますので、当館においても協賛イベントを予定しているところであります。皆様方にも機会がございましたら是非お越し下さるよう職員一同お待ち申し上げます。

広島市健康科学館長 平薗 稔

当館は、健康を守る拠点施設として平成元年9月に開館いたしました。

健康についての認識を高め、自主的に健康問題を解決して行く能力を養うための情報を提供する展示施設です。今年は、楽しみながら健康学習ができる場として、より多くの方に積極的に利用していただける施設にするため、展示の更新を計画する、反省・見直しの年とします。特別展は、エイズ予防を含めた「性教育展」と衣食住を中心に「くらしと健康展」を計画しております。

広島市江波山気象館長 古川 克之

昨年6月1日の気象記念日に開館し、全協の仲間入りをさせていただきました。どうかよろしく願いいたします。

当館は、被爆建物の旧広島地方気象台本庁舎を広島市が譲り受け、全国初の気象をテーマにした博物館として整備したものです。

お天気情報、大気の循環、雨と風など8コーナーの常設展示の他、気象講座、サイエンスショー、気象解説などを実施し、予想以上のご好評をいただいているところです。3月下旬には火山と地震展、夏休みには気象フェアも計画しております。

年 頭 の 抱 負

山口県立山口博物館長 上 俊明

当館は1917（大正6）年に開館した博物館で今年で76年を迎えます。1967（昭和42）年に近代的な新館舎に改築され、歴史・生物・地学・天文・理工の部門を持つ総合博物館として現在に至っています。

平成5年度は、企画展として自然部門のものを二つ、歴史系を一つ企画しています。

全国的に数少ない総合博物館です。地域の歴史・自然の情報を一元的に処理できる特色を生かして今年も努力していきます。

香川県自然科学館長 黒川 隆弘

当館は昭和45年開館、以来22年を経過した今、事業及び資料展示を見直し、本年度はその第一歩を踏み出したいと考えています。

まず新規事業として(1)自然体験学習ルートの開発(2)自然観察の育成者指導者講習会の開催、展示では参加体験型の展示を重視し、展示物の解説リーフレット、学習シート等、参加者自らが学習できる補助資料の作成に努めていきたいと思ひます。また、動植物の絶滅危惧種など、環境問題の提起となる資料展示も併せて新設したいと考えています。

福岡市立少年科学文化会館長 古西 憲輔

当館はそもそも少年文化会館であったものを10年前、当時併設されていた教育センターの移転後の部分を科学展示スペースとして改装し、名称も少年科学文化会館と改称したものです。しかし建物も老朽化し、科学展示も現状では極めて不十分です。一方、宇宙工学、生命科学等先端技術の著しい進歩と地球環境問題等、状況は大きな転換期を迎えています。このため科学と人間の未来を展望する先駆的な新科学館を21世紀までに建設したいと願ひ、先ずは基本構想策定のための資料作成に取り組んでいるところです。

九州エネルギー館長 安浪 栄顕

昨年7月に館長に就任し、最初の新春を迎え、心新たに館運営に携っていきたくと思ひております。

昨年度は9月に入館者が200万人を達成、11月には開館10周年の記念行事として色々なイベントを実施し、その間1日の入館者が5,000名を突破するという新記録を出すことが出来ました。

来館者も九州地方はもとより、全国各地から、また外国からの見学者が近々増加傾向を示しております。

今後とも皆様から愛され親しまれる科学館としてなお一層充実を図っていきたくと思ひております。

北九州市立交通科学館長 小石川 隆一

当館は昭和60年に北九州市都市モノレールの開通を記念して、その終点周辺の都市公園整備事業の一環として開設されました。以来7年余を経て最近、ようやく近県にも存在を知られ、とくに小中学校の社会見学には定着した観があります。

展示は陸上・海上・宇宙と多岐にわたりますが、展示スペースには限度があります。

したがって本年は、観覧者の参加できる催しや映像を中心としたイベントなどソフト面に工夫を凝らして、一層親しまれる科学館づくりを目指したいと考えています。

宇宙博物館長 平井 敬典

北九州市スペースワールド内にあります当宇宙博物館も本年6月には開館2周年を迎えます。当館には宇宙開発の歴史を示す各種の展示品、たとえばゴダード博士の液体ロケット、月ロケットサターンV型に使用されたJ-2エンジン、アポロ宇宙船、宇宙服、スペースシャトル用エンジン等が並べられていますが、昨年スプートニク1号に加えてエクスポローラー1号が追加されました。アメリカ、ロシアそれぞれの最初の宇宙飛行体が仲よく並んで、皆様の御来訪をお待ちしています。



年 頭 の 抱 負

福岡県青少年科学館長 瀧上 雄幸

当館は開設以来4年目を迎えますが、本年は展示品の更新計画の策定を予定しています。

学校5日制への対応も、子ども達が自由にのびのびと活動できるような開かれた科学館としての事業の研究開発に努力するとともに、夢とロマンをかきたてる企画展や学校、企業等との連携事業を進めてまいります。プラネタリウム番組は、郷土に題材をとったオリジナル番組のシリーズ製作の準備を進めておりますが、来館者に親しまれ、来館者が主役となるような科学館づくりをめざして館員一同張り切っております。

宮崎科学技術館長 日高 利幸

当館は、昨年開館5周年を記念して展示物を更新しました。新設の案内ロボットや今、注目のVR等先端科学とのふれあいの楽しい声が館内に溢れています。21世紀を展望し、時代を担う子供達の科学教育の重要性が強調されている今は、科学館運営にたずさわる者の1人として身の引き締る思いがします。本年も前年に引続き科学する心と創造性を豊かに育む諸事業に積極的に取り組みますとともに地域に根ざしたコミュニティサイエンス広場として市民の皆さんに親しまれ、魅力ある館づくりに創意工夫していきたいと考えています。

鹿児島県立博物館長 立園多賀生

当館は、世界的に貴重とされている鹿児島の自然について展示していますが、年毎に自然への関心は高まり、生態系を含めた総合的な情報をもつ自然資料が求められるようになりました。

現在実施中の「生態系調査会」には、多くの県民の参加があり、成果を特別展で発表して好評を得たところです。本年からは、さらに本格的な資料収集や調査研究を行い、常に新鮮な情報を提供し、多くの人々に感動を与え、思考力や創造力を高める魅力ある展示に努めていきたいと思っています。

鹿児島市立科学館長 是枝 正名

今ほど人々の生活に科学技術が大きな影響を与えている時代はありません。今後も、ますます私たちの日常生活の中に、深くかかわってくるものと考えられます。

21世紀の科学はさらに進歩し、まさしく科学の時代の到来といわれます。“科学の時代を担う青少年の育成”科学館にとっても、その役割は大きなものがあると考えます。

当館も開館して3年目を迎えます。内容の充実に一層の努力をし、科学を育む場としての務めを果たしてまいりたいと思います。

全 科 協 北 か ら 南 か ら

特別展・企画展

千葉県立中央博物館

企画展 偏光顕微鏡でみる岩石の世界

会期：2月16日（火）～3月28日（日）

生態園トピックス展 カモ

会期：2月16日（火）～3月31日（水）

我孫子市鳥の博物館

第11回企画展 ヤマドリ展

会期：開催中～5年4月11日（日）

国立科学博物館

台湾の山と小動物 ―国際学術研究の成果―

会期：1月12日（月）～2月14日（日）

岐阜県博物館

特別陳列 学校宝物展

会期：2月16日（火）～3月31日（水）

倉敷市立自然史博物館

第9回特別展 街なかの自然

会期：開催中～5年2月28日（日）

プラネタリウム番組

板橋区立教育科学館

星は生きている（投影中～2月21日（日））

全天周映画 ナイアガラ（投影中～2月21日（日））

半田空の科学館

ゴンからの便り（投影中～2月28日（日））

和歌山市立こども科学館

星の誕生（投影中～3月7日（日））

剥製・骨格・標本 全種製作専門

有限
会社

尼ヶ崎剥製標本社

〒113 東京都文京区弥生2-7-1
TEL.03(3814)8874(代) FAX.03(3813)1426

コンピューター画面を写真で拡大

手作りの良さと最新のノウハウで挑む

ーデジタル・プリントー

このたび開発されたNEW
プリントで、コンピューター
入力したものを写真で拡大
したものです。

sasao

〒110 東京都台東区北上野2-27-7
TEL 03-3843-4611
FAX 03-3483-4646

「恐竜マグ」発売元

博物館・科学館の記念品

オリジナル商品の企画・製作

TEL. 03-3467-6555 株式会社 アンティー
FAX. 03-3467-6568 〒151 東京都渋谷区富ヶ谷1-17-9-302

斬新な企画とアイデアで科学をディスプレイする。
Science & Display これが目標です。



株式会社 サテイト

東京都渋谷区神宮前3-10-12
TEL. (03)3478-0055(代表)ユニークなディスプレイ
企画・設計製作・施工

om 大 味

〒116 東京都荒川区町屋6-6-5
TEL.3892-2796(代) FAX.3819-2821

生きた空間づくりをめざして

科学館・博物館の企画・設計・施工

商工美術株式会社

本社 東京都目黒区目黒本町2の17の20

東京03-3716-7601 大阪 06-251-4141
名古屋052-261-6756 札幌011-222-5261

For Nature

INTERIOR/EXTERIOR/DESIGN/EQUIPMENT
ONY KOB0 CO.,LTD.

PHONE:(03) 3221-1102(代)

恐竜復元模型

(ティラノサウルス
アロサウルス
トリケラトプス etc.)

- 化石標本
- 動物骨格標本
- 各種実験装置
- 天体フィルム

その他、博物館、科学館、展示品一式。

(株)ゼネラルサイエンスコーポレーション

〒107 東京都港区赤坂3-11-14 赤坂ベルゴビル802
TEL.03-3583-0731 FAX.03-3584-6247

学研

Gakken

学研
研究社
環境メディア部〒146 東京都大田区仲池上1-17-15(学研第2ビル)
TEL.03(3726)8761博物館・科学館
企画・設計・制作・施工

MUSEUM EVALUATION

博物館が意図する活動と利用者の期待とを
調整する「評価」のシステムが、今求めら
れています。

株式会社 丹青総合研究所
文化空間研究部〒113 東京都文京区湯島3-9-11 増田ビル
TEL 03-3836-7323 FAX 03-3836-7599



株式会社 東京スタデオ PHONE : 03-3946-8241

本 社 東京都豊島区駒込 1-14-6

営業所 札幌 浜松 豊橋 京都 福井

夢環境の創造

日精株式会社

本社 東京都港区西新橋1-16-17

tel 03(3502-9591)

美術 は く 製

各種生物
剥製・骨格標本・レプリカ
加工・販売・リース



有限 東洋近代美術研究所
会社

製作所 〒272 千葉県市川市本北方 2-18-1 電話 0473(37) 5 6 7 8

本 社 〒272 千葉県市川市国分 5-3-25 電話 0473(74) 1 5 6 4

NOMURA

株式会社 乃村工藝社

文化施設事業部

本 社 : 東京都港区芝浦 4 丁目 6 番 4 号

電話 03-3455-1171(代表)

営業種目/ディスプレイおよび建築の調査・コンサルティ
ング・企画・設計・デザイン・プロデュース・演出・制作施工

ビクチャー ハンギング システム

コルダーライン

芸術を人の心に結びつける、壁面展示専用金具。

NAC M
NAKAMURA TAKAYA CORP.

株中村多喜彌
●大阪/〒542 大阪市中央区島之内1-10-12
TEL.06-253-0331 FAX.06-253-0339
●東京/〒135 東京都江東区三好3-8-15
TEL.03-3642-3801 FAX.03-3643-0096

展示用・研究資料

鉱物・化石標本専門

凡 地 学 研 究 社

〒113 東京都文京区千駄木2-42-2

TEL.03(3821)6941 FAX.03(3824)9134

貝類・甲殻類・化石標本の卸小売

株式会社 ナカヤス

創業35年主業務の貝類標本に付きましては最
稀産種より観賞用美麗種まで1500種以上を常
備、各方面のご要望にお応え致しております。

〒251 神奈川県藤沢市鶴沼桜が岡3-18-23

TEL(0466)27-1127 FAX(0466)22-2271

やかな発想、確かな技術
と科学のディスプレイ

MEGA
SYSTEM DEVELOPMENT

企画・設計・製作

株式会社 メガ・システム開発

〒153 東京都目黒区目黒1-2-23-10号 TEL.03-3493-8864 FAX.03-3493-1870

ユニークな企画と

定評ある表現技術

株式会社 西尾製作所
NISHIO BIOLOGICAL MODELS CO.,LTD.

〒607 京都市山科区柳辻池尻町48-4

TEL.京都(075)594-0181(代) FAX.(075)593-2384

事務局から

博物館・科学館等の展示、教育普及活動等に関係
ある業種の広告を、この全科協ニュースに掲載希
望の場合には、お問い合わせください。

〒110 台東区上野公園 7-20

国立科学博物館内 全科協事務局

電話 03-3822-0111(代) FAX 03-3824-3298



狭山市立博物館

〒350-13 埼玉県狭山市稲荷山1-23-1
TEL 0429-55-3804 FAX 0429-55-3811



利用案内

開館時間 9:00~17:00

休館日 月曜日（祝・休日は開館）、国民の祝日の翌日（土・日曜日又は祝・休日は開館）、第4金曜日（但し、祝・休日は開館）、12月27日~1月4日

入館料 一般 150円（100）

高校生・大学生 100円（60）

小学生・中学生 50円（30）

（ ）は20人以上の団体料金、その他免除制度があります。

施設概要

用地面積 4,199.63㎡ 建築面積 1,796㎡

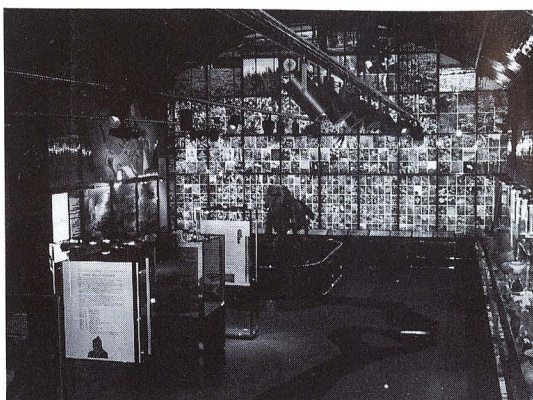
延床面積 3,452.66㎡ 常設・企画展示室面積 814㎡

建物概要 鉄筋コンクリート造、地下1階、地上2階

当館は、面積約21haの緑豊かな稲荷山公園内に位置しています。

建物本体は、当市で盛んに生産されている「狭山茶」の畝をかたどったカマボコ形の建物2棟が、「七曲井（ななまがりのい）」や「堀兼之井（ほりかねのい）」など市内に残る古代井戸を模した円筒形の建物1棟をL字型で包み込むように構成されています。この円筒形の建物の内部は「舞い舞いホール」とネーミングされていて、直径・高さがそれぞれ約13メートルある1・2階吹き抜けのホールです。高さを活かした展示やイベントのできる空間になっています。またこのホールは、2階にある展示室への導入部分として壁面に沿ってスロープがはしっており、この壁面では、市内の8カ所の風景を版画で展示しています。

外壁には「斜子織（ななこおり）」と称され江戸時代末期から明治時代中期にかけて当地方で盛んに生産された絹織物の織り柄をデザインするなど建物の随所に市の歴史や文化にゆかりのあるものを施してあります。



その他館内には見るだけでなく使うことのできる茶室や2階ロビーには館蔵品である横山大観や藤田嗣治の絵画を順次展示しているコーナーが設置されています。

展示概要

展示室は常設展示室と企画展示室とがあり、常設展示室では、基本テーマを「人間川と人間路ーその自然と風土ー」として、幅約10メートル奥行き約60メートルの細長い展示室をタイムトンネルになぞらえて先史時代から現代にいたるまでの当市の歩みを自然科学、人文科学両分野にわたる総合的な視点から捉えて展示しています。

自然分野は、市の中央を貫流する人間川流域から発掘された日本で最初に復元されたアケボノゾウ（*Stegodon aurorae*）の骨格標本をはじめ、市の地質形成の歴史や地球の誕生と生命の発生と進化の歴史、市内に生息する野生の動植物や昆虫、そして人間川の水棲生物を実物、グラフィック、映像などを使って展示しています。

人文分野には、人々が当地に生活を始めてから現在にいたる足跡をその時代時代の人々の生活の様子が分かるように展示しています。

企画展示室は、平成3年11月の開館以来3回の企画展・特別展を開催しました。特に開館記念特別展では、当館の主要展示資料のひとつであるアケボノゾウにスポットをあてて、古代像の系譜について展示しました。

学習会や講習会などの教育普及活動についてはこれまで特別展・企画展に併せてそれぞれ開催しました。